

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年 3月28日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	関根紳太郎
研究課題	ヘルスケアコミュニケーションの理論と実践—基礎的研究としてのヘルスケアコーパスの構築、分析、評価					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	関根紳太郎	保健福祉学科・准教授	メディア英語学、言語文化論	ヘルスケアコーパスの構築・分析・評価	
	分担者	堀智子	順天堂大学スポーツ健康科学部・准教授	英語学、異文化コミュニケーション論	ヘルスケアコーパスの評価	
研究実績の概要	<p>現代社会において、介護、看護といった保健福祉分野、栄養や食といった健康科学分野のいずれにおいても、ヒトが単独で完結できるものではないことは周知の通りである。そして、ヒトと、ヒトが求める広義のヘルスケア（介護や看護、食や栄養等を含む）の間には介在するヒトがいる。すなわち、介護士であり、看護師であり、社会福祉士であり、栄養士であり、食品衛生士等である。そうした介在者たる専門的スキルを有する人材の育成を本学は目指している。（岡山県立大学保健福祉学部ディプロマ・ポリシー）</p> <p>一方、各分野における専門的知識やスキルと同様に、汎用的スキルとしてのコミュニケーション力の向上は、介在者の資質として近年特に注目されている。実際、①ヘルスケア従事者・消費者間のコミュニケーション、②ヘルスケア従事者間のコミュニケーション、③ヘルスケア消費者間のコミュニケーションは重要であると考えられている。さらに、従来こうしたコミュニケーションは、直接の対話ベースで実践されていたが、現代社会では、各種メディアを介したコミュニケーションも増えている。特にインターネットを介したメディア情報受容型コミュニケーションは、ヒトの医療および健康行動の変容に大きな影響を与えていると言える。（「ヘルスコミュニケーションのメッセージ：メディアの研究と実践の現状」（高山他、日本ヘルスコミュニケーション学会、2011））</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

本研究では、保健福祉および健康科学を融合させたヘルスケアを主たる研究対象とし、齟齬や誤解につながる一方向ではなく、双方向型且つ諸外国の動向も見据えたグローバルなヘルスケアコミュニケーションの理論的体系化と実践の基礎研究としてヘルスケアコーパスを構築し、その分析・評価を試みたものである。また、ヘルスケアコーパスから抽出されるキーワードとそれらの共起語（意味的に関連する語群）に対してもディスコース分析や認知意味論を応用したメディア英語学および言語文化論的考察を加えることで、保健福祉や健康科学を取り巻く現状を俯瞰した。こうした取り組みを通じて、上掲した3つのコミュニケーション間の意思疎通や合意形成の適正化を目指すとともに、保健福祉や健康科学の現状を言語的に把握し、今後のグローバル化に対応したヘルスケアコミュニケーション研究の基礎資料とすることを期待する。さらに、メディアで提供されている様々なヘルスケア情報に対するヘルスケア消費者のリテラシー力の向上も目指す。

上記に基づいた本年度の研究実績としては、以下のような成果が上げられた。

※学会等の研究発表

①「英語圏メディアを活用したヘルスケアコーパスの構築とメディアコミュニケーション分析」第10回日本ヘルスコミュニケーション学会（ポスター発表）（平成30年9月11日、於・九州大学病院キャンパス）

②「コーパスを活用した社会分析—ヘルスケアコミュニケーションの基礎研究」第8回日本メディア英語学会年次大会（口頭発表）（平成30年10月21日、於・東京学芸大学）

※研究論文（発表誌等）

①「グローバルコミュニケーションと域学連携に関する予備的研究」岡山県立大学教育研究紀要2018（研究ノート）